



四国三十三  
観音靈場会 おつとめ教本



觀世音菩薩種字  
《弘法大師御筆》

四国三十三觀音巡拜の三誓願

大慈大悲の御誓願にたより 異体同心 誓つ

て觀世音菩薩の信仰に精進せんことを願う。

巡拜の道は これ修行の道と心得 誓つて

三毒の煩惱を断ち 無垢清淨ならんことを願う。

一 観音妙智力の利益を信じ誓つて七難即滅 七  
福即生を祈念し 現世安穩を請来せんこと  
を願う。

四国三十三觀音靈場巡拜勤行次第

先 正坐 合掌して一札

社 うやうやしく 齋み仏を礼拝し奉る。

次 祈願文

社 唱え奉る 齋 このところの御本尊 大慈大悲觀世音菩薩を始め奉り 当山鎮守 総じては日本國中大小神祇に祈願し奉る。

至心発願 天

次

長地久 即身成仏 密嚴國土 風雨順時 五穀  
豊饒 万邦協和 諸人快樂 交通事故 即疾消  
除 二世大願 決定円満 乃至法界 平等利益

懺悔文

無始よりこのかた 貪瞋痴の煩惱にまつわられて  
身と口と意とに造るところの もろもろの罪とが  
を皆ことごとく懺悔し奉る。

我昔所造諸惡業 皆由無始貪瞋痴

従身語意之所生 一切我今皆懺悔

### 三帰依文

次

この身 今生より 未来際を尽くすまで 篤く

三宝に帰依し奉らん。

弟子某甲 さんきょうのもん

尽未来際 帰依仏

帰依法

帰依僧

次

この身 今生より 未来際を尽くすまで 篤く

三竟文

この身

今生より

未来際を尽くすまで

ひた

すら 三宝に帰依し奉り とこしなえに 変わる  
ことなからん。

弟子某甲 さんきょうのもん

尽未来際 帰依仏

帰依法竟

帰依法竟

帰依

僧竟

### 十善戒の誓い

次

この身今生より 未来際を尽くすまで

十善

此の身今生より 未来際を尽くすまで  
のみ教えを守り奉らん。

次

弟子某甲 尽未來際 不殺生 不偷盜 不邪淫  
 不妄語 不綺語 不惡口 不兩舌 不慳貪 不瞋恚  
 悲志不邪見

發菩提心真言

白淨の信心をおこして 無上の菩提を求む  
 願くは自他もろともに 仏の道を悟りて生死の  
 海を渡り すみやかに解脱の彼岸に到らん。

次

おん ぼうじ しつた ぼだはだやみ

三摩耶戒真言

我らは み仏の子なり ひとえに如來大悲  
 の本誓を仰いで 不二の淨信に安住し 菩薩利  
 他の行業を励みて法身の慧命を相続し 奉らん。  
 おん さんまや さとばん

次

開經偈

次

無上甚深微妙の法は

百千万劫にも遭い遇う

あ  
あ  
あ  
あ

こと難し 我いま見聞し受持することを得たり

かた  
われ  
けんもん  
じゅじ

願くは如來の真実義を解し奉らんことを。

無上甚深微妙法

百千万劫難遭遇

あ  
あ  
あ  
あ

我今見聞得受持

願解如來真実義

般若心經

般說摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空  
度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空  
空空即是色 受想行識 亦復如是 舍利子是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不滅 是故空中無色無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色聲香味觸法 無眼界 乃至無意識界 無無明 亦無無明 尽乃至無老死亦無老死 尽無苦集滅道 無智亦

次

觀音經偈

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五 偈  
 齋世尊妙相具 我今重問彼  
 具足妙相尊 佛子何因緣  
 名為觀世音 偈答無盡意  
 汝聽觀音行 佛子何因緣  
 歷劫不思議 偈答無盡意  
 我為汝略說 偈答無盡意  
 能滅諸有苦 偈答無盡意  
 歸依淨土身 偈答無盡意  
 聞名及見身 偈答無盡意  
 侍多千億仏 偈答無盡意  
 推落大火坑 偈答無盡意  
 心念不空過 偈答無盡意  
 願生淨土身 偈答無盡意  
 無能障礙故 偈答無盡意  
 依般若波羅蜜多故 偈答無盡意  
 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提 故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪 是無等等呪 能除一切苦真實不虛 故說般若波羅蜜多呪 即說呪曰 揭諦揭諦波羅揭諦 菩提薩婆訶 般若心經

無得 以無所得故 菩提薩埵 依般若波羅蜜多故 無有恐怖遠離一切顛倒夢想究竟 涅槃 三世諸仏 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提 依般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪 是無等等呪 能除一切苦真實不虛 故說般若波羅蜜多呪 即說呪曰 揭諦揭諦波羅揭諦 菩提薩婆訶 般若心經

刀尋段段壞	ねんびかんのんりき
念彼觀音力	わくこかんかさ
所欲害身者	じょくがいしんじや
或遇惡羅刹	わくぐうあくらせつ
時悉不敢害	じしへかんがい
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
積然得解脫	じくねんとくげだつ
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
毒竜諸鬼等	どくりゅうしょきとう
若惡獸罔繞	にゃくじゆうようじゆう
疾走無邊方	しつそうむへんぱう
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
手足被杻械	しゆそくひじかい
呪詛諸毒藥	しゆそしょくやくやく
還着於本人	げんじょおほんにん
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
利牙爪可怖	りやくそろかぶ
蠍蛇及蝮蠍	あんじやぢやうかつ
尋声自回去	じんじゆうじえこ
氣毒煙火然	けどくえんかねん
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
念彼觀音力	ねんびかんのんりき

或漂流巨海	わくひよるこかい
火阨变成池	かほへんじょう
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
為人所推墮	いにんしょすいだ
或被惡人逐	わくひあくにんちく
不能損一毛	ふのりそんいちもう
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
墮落金剛山	だらくこんごうせん
波浪不能沒	はろうふのうもつ
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
咸即起慈心	げんそくじ
或值怨賊繞	わくちおんぞくじまく
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
或遭王難苦	わくそうおうなんく
各執刀加害	かくじゅうとうかがい
念彼觀音力	ねんびかんのんりき
如日虛空住	にょじこくうじゅ
或在須弥峯	わくざいしゆみぶ
竜魚諸鬼難	りゆうぎよしづかん
念彼觀音力	ねんびかんのんりき

雲雷鼓掣電  
 應時得消散  
 観音妙智力  
 広修智方便  
 種種諸惡趣  
 以漸悉令滅  
 悲觀及慈觀  
 十方諸國土  
 衆生被困厄  
 降雹澍大雨  
 無量苦逼身  
 具足神通力  
 生老病死苦  
 無刹不現身  
 念彼觀音力  
 普明照世間  
 潤甘露法雨  
 怖畏軍陣中  
 妙音觀世音  
 是故須常念  
 於苦惱死厄  
 慈眼視衆生  
 具一切功德  
 念彼觀音力  
 慧日破諸闇  
 悲体戒雷震  
 減除煩惱燄  
 念彼觀音力  
 梵音海潮音  
 念念勿生疑  
 能為作依怙  
 聰訟經官處  
 勝彼世間音  
 観世音淨聖  
 具一切功德  
 慈眼視衆生  
 能伏災風火  
 慈意妙大雲  
 衆怨悉退散  
 勝彼世間音  
 普明照世間  
 潤甘露法雨  
 怖畏軍陣中  
 妙音觀世音  
 是故須常念  
 於苦惱死厄  
 慈眼視衆生  
 慧日破諸闇  
 悲体戒雷震  
 減除煩惱燄  
 念彼觀音力  
 梵音海潮音  
 念念勿生疑  
 能為作依怙  
 聰訟經官處  
 勝彼世間音  
 観世音淨聖  
 具一切功德  
 慈眼視衆生

次

福聚海無量。是故應頂禮。  
 爾時。持地菩薩。即從座起。前白仏言。世尊。  
 若有衆生。聞是觀世音菩薩品。自在之業。普門示現。  
 神通力者。當知是人。功德不少。仏說是普門品時。  
 衆中。八万四千衆生。皆發無等等。阿耨多羅三藐三菩提心。  
 舍利札文。

一心頂礼。本地法身。入我我入。利益衆生。平等大智。  
 延命十句觀音經。青南無佛。與佛有因。與佛有緣。

獨一之心頂礼。萬德圓滿。法界塔婆。仏加持故。今將頂礼。

青。萬德圓滿。法界塔婆。仏加持故。今將頂礼。

我等禮敬。我証菩提。修菩薩行。同入圓寂。

釡迦如來。真身舍利。爲我現身。以仏神力。

次

福聚海無量。是故應頂禮。  
 爾時。持地菩薩。即從座起。前白仏言。世尊。  
 若有衆生。聞是觀世音菩薩品。自在之業。普門示現。  
 神通力者。當知是人。功德不少。仏說是普門品時。  
 衆中。八万四千衆生。皆發無等等。阿耨多羅三藐三菩提心。  
 舍利札文。

一心頂礼。本地法身。入我我入。利益衆生。平等大智。  
 延命十句觀音經。青南無佛。與佛有因。與佛有緣。

獨一之心頂礼。萬德圓滿。法界塔婆。仏加持故。今將頂礼。

青。萬德圓滿。法界塔婆。仏加持故。今將頂礼。

我等禮敬。我証菩提。修菩薩行。同入圓寂。

釡迦如來。真身舍利。爲我現身。以仏神力。

仏法僧縁

常樂我淨

朝念觀世音

暮念觀世音

念念從心起

念念不離心

御本尊真言

(靈場各寺院の御本尊の真言を唱える)

聖觀世音菩薩真言

おん あろりきや そわか

光明真言

唱え奉る光明真言は

大日普門の万徳を二十

次

三字に撰めたり おのれを空しゆうして一心に唱え  
奉れば み仏の光明に照らされて三妄の霧お  
のずから晴れ 净心の玉 明らかにして 真如の月  
まどかならん。

おん あぼきや べいろしやのう まかほだら  
まに はんどま じんばら はらばりたや うん

大師御宝号

高野の山に身をとどめ

救いのみ手を垂れ給う

次

次

おしえのみおやに帰依したてまつる  
長夜の闇路を照らし  
二仏中間の我等を導きたま  
え

南無大師遍照金剛

回向文

願くは  
及し  
ことを

この功德をもつて  
我らと衆生と  
皆ともに仏道を成せん

願以此功德  
皆共成仏道  
願以此功德  
普及於一切  
我等与衆生

以上

# 四国三十三觀音靈場の御本尊と御真言

靈場名・御本尊	御 真 言
第一番 正興寺 地藏菩薩	おん かかか びさんまえい そわか
第二番 西光寺 阿弥陀如來	おん あみりた ていせい からうん
第三番 蓮光寺 薬師如來	おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
第四番 神宮寺 文殊菩薩	おん あらはしゃのう
第五番 大日寺 十一面觀世音菩薩	おん まか きやろにきや そわか
第六番 神應寺 大聖不動明王	のうまく さまんだ ばざらだん せんだ まかろしゃだ そわたや うんたらた かんまん
第七番 隆禪寺 阿彌陀如來	おん あみりた ていせい からうん
第八番 観音寺 十一面觀世音菩薩	おん まか きやろにきや そわか
第九番 正覺寺 弘法大師	南無大師遍照金剛

第十番 高照寺 千体地藏菩薩	おん かかか びさんまえい そわか
第十一番 金剛寺 金胎両部大日如來	おん あびらうんけん ばざら だとばん
第十二番 大德寺 波切不動明王	のうまく さまんだ ばざらだん せんだ まからしやだ そわたや うんたらた かんまん
第十三番 高野寺 弘法大師	南無大師遍照金剛
第十四番 大善寺 弘法大師	南無大師遍照金剛
第十五番 臨江寺 藥師如來	おん ころころ せんたり まとうぎ そわか
第十六番 永昌寺 藥師如來	おん ころころ せんたり まとうぎ そわか
第十七番 法通寺 阿彌陀如來	おん あみりた ていせい からうん
第十八番 出石寺 千手觀世音菩薩	おん ぼざら たらま きりく
第十九番 圓福寺 延命地藏菩薩	おん かかか びさんまえい そわか

第二十番 大師寺 大日如來	おん あびらうんけん
第二十一番 儀光寺 千体十一面觀世音菩薩	おん まか きやろにきや そわか
第二十二番 今治別院 弘法大師	南無大師遍照金剛
第二十三番 無量寺 阿弥陀如來	おん あみりた ていせい からうん
二十四番 寶蓮寺 大日如來	おん あびらうんけん
二十五番 西福寺 阿彌陀如來	おん あみりた ていせい からうん
二十六番 吉祥院 藥師如來	おん あびらうんけん ばさらだとほん
二十七番 延命寺 大日如來	おん ころころ セんだり まとうぎ そわか
二十八番 署藏寺 金毘羅大權現	おん くびらや そわか
二十九番 鳴田寺 阿彌陀如來	おん あみりた ていせい からうん

第三十番 正覺院

聖觀世音菩薩

おん ありきや そわか

第三十一番 清道寺

阿弥陀如來

おん あみりた ていせい からうん

第三十二番 藥師院

藥師如來

おん ころころ せんだり まとうぎ そわか

第三十三番 香西寺

おん かかか びさんまい そわか

食前のことば（一同合掌）

折二丁

○ われいま  
一滴の水  
感謝し奉る。

○ 清淨き この食を受く、  
一粒の米に生きる 尊い生命 この食に

いただきます。

食後のことば（一同合掌）

折二丁

○ われいま 清淨き この食を受け、法喜充满す。願わ  
くは身命を保ち 仏道に精進せんことを。  
ごちそうさま。

## 四国三十三観音霊場一覧

### 徳島県

靈場名	郵便番号	住所	TEL・FAX
第1番 正興寺	〒772	鳴門市撫養町畜田字岩崎144	電 (0886) 86-4591 ⑨ (0886) 86-1188
第2番 西光寺	〒771-17	阿波郡阿波町字細荷53	電 (0883) 35-2784 ⑨ (0883) 35-7008
第3番 達光寺	〒779-32	名西郡石井町石井字重松531-1	電 (0886) 74-4568 ⑨ (0886) 74-3930
第4番 神宮寺	〒771-53	名西郡神山町神籠字西上角438	電 (0886) 76-0483
第5番 大日寺	〒779-31	徳島市一宮町西丁263	電 (0886) 44-0069 ⑨ (0886) 44-1071
第6番 神應寺	〒779-11	那賀郡那賀川町八幡49-2	電 (0884) 42-0908
第7番 錦禅寺	〒774	阿南市宝田町久保田119-12	電 (0884) 23-0598
第8番 観音寺	〒779-23	那賀郡日和佐町奥河内字本村78	電 (0884) 77-0069 ⑨ (0884) 77-1169

### 高知県

靈場名	郵便番号	住所	TEL・FAX
第9番 正覺寺	〒781-64	安芸郡奈半利町立町乙1718	電 (08873) 8-4462
第10番 高照寺	〒781-42	香美郡香北町朴ノ木102	電 (08875) 9-3582 ⑨ (08875) 9-4381
第11番 金剛寺	〒781-36	長岡郡本山村寺家759	電 (0887) 82-0213
第12番 大徳寺	〒783	南国市大浦乙2194	電 (0888) 64-2229 ⑨ (0888) 63-1001
第13番 高野寺	〒780	高知市本町2-3-18	電 (0886) 72-2032 ⑨ (0886) 72-5009
第14番 大善寺	〒785	須崎市西町1-2-1	電 (0889) 42-0800

愛媛県

靈場名	郵便番号	住所	TEL・FAX
第15番 鹿江寺	〒798-33	北宇和郡津島町岩松530	電 (0895)32-2703 ⑤ (0895)32-2703
第16番 永昌寺	〒798-21	北宇和郡松野町松丸1634	電 (0895)42-0237
第17番 法通寺	〒798-03	西宇和郡伊方町中浦甲692	電 (0894)38-0423 ⑤ (0894)38-0423
第18番 出石寺	〒799-34	喜多郡長浜町豊茂乙若番地	電 (0893)57-0011 ⑤ (0893)57-0012
第19番 圓福寺	〒791-11	松山市龍野町10	電 (089)963-1070
第20番 大師寺	〒791-01	松山市食場町73-5	電 (089)977-5106 ⑤ (089)941-4769
第21番 優光寺	〒791	松山市古三津1-2-33	電 (089)951-0576 ⑤ (089)951-5364

靈場名	郵便番号	住所	TEL・FAX
第22番 今治別院	〒794	今治市別宮町2-4-14	電 (0898)31-3840 ⑤ (0898)23-2275
第23番 無量寺	〒799-16	越智郡飯倉村大字飯倉上甲776-3	電 (0898)56-2156 ⑤ (0898)56-3924
第24番 貴蓮寺	〒793	西条市爾日市543	電 (0897)55-3130
第25番 西福寺	〒799-07	宇摩郡土居町上野954-2	電 (0896)74-6104 ⑤ (0896)74-6139
第26番 吉祥院	〒799-01	川之江市川之江町1775	電 (0896)56-2319 ⑤ (0896)58-8199

香川県

電 場 名	郵便番号	住 所	TEL・FAX
第27番 龍命寺	〒768	観音寺市桜田町山王1076	電 (0875)25-3234 ⑤ (0875)25-3234
第28番 葬藏寺	〒778	徳島県三好郡池田町洲津藏谷1006	電 (0883)72-0812 ⑤ (0883)72-5651
第29番 鶴田寺	〒762	綾歌郡綾川町下法華寺538	電 (0877)98-2629 ⑤ (0877)98-2629
第30番 正覺院	〒763-02	丸亀市本島町泊842	電 (0877)27-3204 ⑤ (0877)27-3406
第31番 潮道寺	〒762	坂出市本町3-2-1	電 (0877)46-4217
第32番 楽師院	〒762	坂出市林田町1836	電 (0877)47-0387
第33番 香西寺	〒761	高松市香西町211	電 (0878)81-2337 ⑤ (0878)82-8885

觀音和讚

作者不詳

帰命頂礼 観世音

昔は正法明如來

未來は光明功德仏

十大願の海深く

今此の娑婆に示現して

生きとし生ける者のため

大慈大悲の手を重れて

種種に濟度を為し給ふ

譬えれば万の水澄みて

眞如の月の映るゝべ

感應靈驗あらたなり

聞くに法華の普門口宣

三十三に身を分けて

十九の説法有り難く

七難三毒みな滅し

二求両願も成就せり

若し人現世は安穩に

後生善処とねがいなば

kan mon wa san

觀 音 和 讀

四國三十三觀音靈場公演定

律・想詠詞  
適当な速さで歌ふに

作詞葉加 編唱・伴奏

The musical score consists of eight staves of music for voice and piano. The lyrics are written below each staff in both Japanese and Romanized English. The Romanized lyrics are as follows:

- 第一段落: hi myo cha ta - i - - (yo) se a o - -
- 第二段落: mi ka shi wa the bo - A yo e c - -
- 第三段落: mi rai wa ko myo x - ku de ka a - bu tra - -
- 第四段落: ji u da i - ge n n - ta a y o - - -
- 第五段落: i m a c o - - - - - - - - - -
- 第六段落: i k i t o - - - - - - - - - -
- 第七段落: da - i t o - - - - - - - - - -
- 第八段落: Le Le ri - - - - - - - - - -

常常菩薩を念ずべし  
觀音念彼の其の力  
いかなる障も除くなり  
無量の福德集りて  
春の朝に啼く鳥も  
秋の夕の虫の音も  
畢竟梵音海潮音  
聞声悟道の法の声  
實にや仰ぐも尊とけれ  
さて又行者の臨終は

蓮の臺を捧げ来て  
是れ此菩薩を信ぜずば  
老いも若きももろともに  
念佛童女に至るまで  
念念疑ふ心なく  
至心に頂礼致すべし  
南無大慈觀世音  
南無大悲觀世音  
○おんありきやそわか(三遍)

(歌詞の觀・願は旧仮名づかいによつた。)

6 L D to if u - se is  
 no shi hi to ge n - se wa  
 go the o - se o the o -  
 つお つ は せ さ つ お な せ  
 the he m - se bo m - se m - se  
 くわん ほのん おん び の そ の う - い  
 kwan no a n - pi no m - no chi ka - n  
 い か ま ま ま ま ま ま ま  
 ひ う す う す う す う  
 は - ま の あ し た ま な き と - う  
 ha - m - o a si ta m - na ki to - u  
 あ き お お お お お お  
 a ki o o o o o o

た と え は よ ろ す の み す す A - te  
 ta to e ha yo ro su no mi su su A - te  
 し ん に し も う し も う し  
 shin ni shin mo shin mo shin mo  
 か ん の う う う う う う  
 kan no u u u u u u  
 き く う う う う う う  
 ki ku u u u u u  
 さ ん う う う う う う  
 san u u u u u u  
 じ う う う う う う  
 ju u u u u u  
 あ き お お お お お  
 a ki o o o o o

ひ ん た か さ し も る と し  
 o i m o wa ka si mo mo ro to shi - n - - -  
  
 ど じ な く あ こ そ に い た お う す  
 do o na u a co so ni ita o u shu - de  
  
 は ん は ん う た が う し こ こ う う う  
 ha n ha n u ta ga ushi co co u u - -  
  
 し し し し う た う う う う  
 shi shi shi shi u ta u u u - -  
  
 な む だ い う う う う  
 na mu da i u u u - -  
  
 う う だ い う う う う  
 u u da i u u u - -  
  
 な う だ い う う う う  
 na u da i u u u - -

う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -  
  
 う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -  
  
 う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -  
  
 う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -  
  
 う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -  
  
 う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -  
  
 う う う う う う う う  
 u u u u u u u u - -

## 編集を終えて

昨秋第二回四国三十三觀音靈場会先達研修会開催に際して「先達必携」を発刊、高知会場の席上で百六十余名の先達のかたがたに認定証が授与された。なにとぞ先達会の規約を遵守して觀音信仰の昂揚に励んではしいものである。

本年は「先達必携」につづいて、ここに「おつとめ教本」を行した。内容はどなたにも唱えやすく名称も親しみやすい「おつとめ教本」とした。

末尾の觀音和讃は觀音菩薩の本誓・悲願の理解と口唱の難易を考慮して類似の中から選択して本会の選定和讃として採用し採譜は編集子が在来の三和讃の楽譜を転用した。なおローマ字入りの楽譜は奇異に感じられるかも知れないが斬新なセンスからの試みである。

徳島県鳴門市では第一次大戦（一九一四—一九一八）の俘虜収容所で収容者たちが鄉愁の慰めに歌ったベートーベンの第九曲を歌う会が結成せられ機会あるごとに齊唱の場をもつてい

### （備考）

#### 1. 採曲のエリ二つの一例



2. 齊唱の部分の採曲のスリや樂曲の途中にあるイロ二つの音頭等は樂譜を見るよりも音階記号を見た方が分かりやすいので上記の音階記号をごらん下さい。

3. 休止符（休符）は便宜上洋楽のものを使用したが《老若男女どなたにも合唱できるように》を第一としたので、休止符にこだわることなく、ゆったりした気分で合唱してほしい。

4. 律・懸歩調の音階は次のとおり。

#### （懸歩調・律の音階）

ロ	リ	ヰ	ヰ	ヰ	ヰ	ヰ	ヰ	ヰ	ヰ
宮	商	角	角	徵	徵	羽	羽	宮	宮
フロ	リ	ヰ	ヰ	フロ	ヰ	ヰ	ヰ	フロ	ヰ

ることを想起し異国の選挙者にも口唱を希望する一念によるものである。

界市では〇一四による学校給食の食中毒に端を発し世間を騒がしている中、今度は医療・医薬・医学の学界ではヤレ加熱ジヤ、ヤレ非加熱ジヤと異論噴出、某有名人逮捕にまで波及拡大、それの日いか終結を告げん。

### 非加熱やなごりの夏の暑さかな

編集者

明石海峡大橋の橋桁架設が完了、大鳴門橋をはさんで本州と四国がつながり明後年春の開通を持つばかりとなつた。

このミニ教本が到彼岸の掛け橋として少しでもお役にたてばこよなき法幸である。

各靈場寺院名のローマ字の表記は各寺院の指示どおりにしたことを行記しておく。

(日8・孟秋)

(完)

平成八年十月二十三日発行

### 編集

四国三十三觀音靈場会

会長

神山 誠

編集委員長

吉田 寛如

### 印刷所

愛媛県松山市福音寺町七二八番地

### 平和印刷工業株式会社

⑦七九〇 電〇八九一九四七九一五五

### 発行所

愛媛県松山市古三津一一二一三十三

### 儀光寺中

四国三十三觀音靈場会事務局

⑨七九一 電〇八九一九五一一〇五七六

⑩〇八九一九五一五三六四

不可  
複製  
非売品

不可

複製

非売品

護 持 者	
氏 名	住 所
明(生年月日) 大 昭  年 月 日生	(氏名) (FAX) (電話番号)